

マクロアミラーゼおよびマクロリパーゼを同時に認めた一症例

◎藤川 麻由美¹⁾、猪田 猛久¹⁾、嶋田 昌司¹⁾、畑中 徳子¹⁾、岡山 幸成¹⁾、中村 文彦¹⁾
 公益財団法人 天理よろづ相談所病院¹⁾

アミラーゼ (AMY) およびリパーゼ (LIP) 値がともに高値を示し膵炎が疑われたが、両酵素とも免疫グロブリンの結合による偽高値であった症例を経験したので報告する。

【症例】 70 代男性。小腸原発悪性リンパ腫の治療、寛解後、フォロー中であった。総 AMY が 1388 IU/l と高値で、追加検査により膵 AMY 930 IU/l (68%), LIP 711 IU/l と膵炎が疑われた。しかし、膵 AMY 68%は膵炎としては低く、尿 AMY を測定したところ 10 IU/l 未満で、マクロアミラーゼによる偽高値であることが疑われた。画像診断においても膵炎は否定的で LIP もマクロリパーゼによる偽高値であることが疑われた。

【酵素結合性免疫グロブリンの検索】 1. 電気泳動：セルロースアセテート膜電気泳動法を実施した。基質および染色に AMY はブルースターチを、LIP にはリキテックリパーゼカラー II (ロッシュ)を用いた。結果、患者 AMY は正常 P 型位より陽極側にテーリングを示す幅の広いバンドを認めた。LIP は対照血清より陽極側に移動度の違うバンドを認めた。2. 酵素結合性免疫グロブリンの同定：免疫混合

法を実施した。抗血清(IgG,A,M, κ , λ)それぞれに患者血清を反応させ、沈殿物の酵素活性を測定した。結果、AMY および LIP 活性は IgA および κ で高値を示し、結合した免疫グロブリンを IgA- κ type と同定した。

【考察】 本症例は、2 種類の膵酵素が高値であったが、膵炎としては膵 AMY の割合が低いと気付いたことが酵素結合性免疫グロブリン証明のきっかけとなった。IgA 型の酵素結合性免疫グロブリンはマクロアミラーゼに特徴的であり、腸管壁の透過性が亢進する疾患で、食餌抗原に対する抗体が多発した場合に頻出すると考えられている。マクロリパーゼに関しては未だ報告数が少ないが本症例では IgA 型の免疫グロブリンを認めており、腸の免疫機構が関与している可能性が示唆された。

【まとめ】 本症例は同時に 2 種類の膵酵素が免疫グロブリンとの結合を認めた稀な症例であった。複数の膵酵素の上昇を認めた場合でも、膵 AMY の割合が低い際には尿 AMY を測定することが有用である。

代表 0743-63-5611 (内線 7435)